

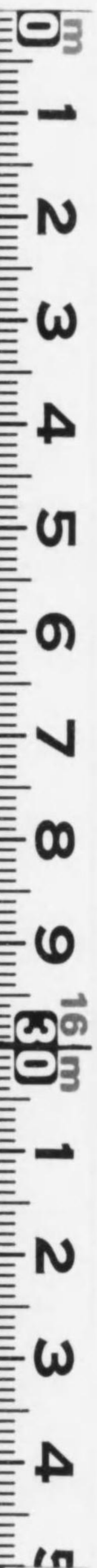
特 254

752

支那回教徒に就いて

イスラム文化協會

始



37  
75



特 254  
152

### 小 序

在支回教徒問題は今次事變を契機として頓に一般の關心を昂めるに到つたが、遺憾乍ら今日同教徒に就いては殆んど何事も知られて居ない。此の實情に鑑み、東亞の新事態に、又防共陣營の強化に重要な役割を演ずる立場にある彼等教徒に關し、其の概要を叙し、彼等と接觸する際の參考資料として此の小冊子を上梓した。對支回教徒文化工作の一助ともなれば幸ひである。

昭和十三年三月

イスラム文化協會





# 支那回教徒に就いて

## 目次

一、回教	(一)
二、回教の傳來と分布	(二)
三、回教徒の職業	(五)
四、回教徒の風習	(七)
五、回教徒の諸將領	(一五)

# 支那回教徒に就いて

イスラム文化協會

## 一、回教

回教（イスラム、伊斯蘭）は約千三百年前アラビヤのメツカでマホメットが唱へ創めた宗教で、其の神をアラーと云ひ、アラー以外に神はなく、その信者即ち回教徒はアラー以外の何ものをも拜んだり信仰したりしてはならぬ譯で、此の世には唯一つの神が存在するだけだと固く信ずる所謂一神教である。

回教徒の数は世界中で約三億位と謂はれて居るが、其中支那に居るのが約五千萬人（或は三千萬といひ、或は千五百萬ともいふ）で、皆スンニ派に屬して居る。（他に



シア派即ちイラン人の屬してゐるもの、其の他二三の分派がある。然して大部分は所謂邊疆の陝西、青海、寧夏、甘肅、新疆及び雲南に居住し、北支方面では河南、河北江蘇、山西、山東、南支方面では廣西、廣東等の諸省に、又其の他の各省にも散在して居る。

## 二、回教の傳來と分布

回教が支那に傳來したのは唐の太宗の頃で、一つは海路から、一つは陸路からである。海からは直接アラビヤの商人等が廣東、福州方面に傳へ、陸からは大食人タイジクが回紇ウイグルを通じて甘肅、陝西方面に傳へたもので、西安及び廣東に夫々回教寺院（清真寺又は禮拜寺と云ふ）が建立された。雲南方面の回教徒は、安南方面に上陸せるアラビヤ遠征隊が次第に雲南に侵入したものの子孫だと謂はれてゐる。

當時南海方面から風に乗つて來航し、福州、泉州（今の晋江）、廣州等で貿易をな

し、又風に順つて歸つて行く異國人があつたが、支那人は之を怪しんで天の際より來るとなし、天方國人と呼んでゐたが、これが即ちアラビヤ人であつた譯である。

其の後玄宗の時安祿山の亂があり、清真寺を通じて回紇ウイグルに救援を求めた。回紇王（懷仁可汗）は其の子葉護に兵五千を附けて救援に赴かせ、右の反亂は鎮定され、後此の五千の將兵が漢土に止まつて唐朝の傭兵となることになつたので、玄宗は江西省から美女數千人を集めて右將士に配したことが記録に残つて居り、又成吉斯汗が中央亞細亞を平定して、兵を回し天山南路から甘肅に入つて來た時、其の麾下百萬の精兵中七割迄が回教徒であつた。次いで太宗が彼の後を繼いで、四百餘州を伐ち從へたが、從軍の回兵は悉く支那北部、殊に甘肅、陝西の兩地方に留まつて、支那人、蒙古人を娶つたが、其の數は五百數十萬と謂はれた。

元朝の時俄然強勢になつた是等回教徒は、明朝になつて其の勢力益々熾烈を極め、北方支那の狀況が不穩になつたので、時の朝が之を各省に分散移住させて、其の勢力



を削ぐことに努めた。これが支那各省に回教徒の蔓延した始まりだと謂はれてゐる。其の後清朝を経て今日に至り、教民の數愈々多きを加へ、前述の如く五千萬人と稱せられるに到つたが、今各省在住教民の概數を示してみると、次の通りである。

省名		萬人	省名		萬人
新	疆	三〇〇	甘	肅	二二〇
寧	夏	八〇	陝	西	四〇〇
青	海	二五〇	河	南	五〇〇
河	北	二〇〇	山	東	二八〇
山	西	一二〇	安	徽	二〇〇
湖	北	二六〇	江	蘇	三〇〇
雲	南	三〇〇	西	康	一五〇
湖	南	三〇〇	江	西	一〇〇

廣	西	三〇〇	廣	東	五〇
察哈爾並綏遠		一五	其	他	三五〇
滿	洲	三五〇			

【右は一九三一年中國内政部發表による人口を基礎として、各省の清真寺檀家戸數より推算せり】

支那在住回教徒（回民）の中、殆ど漢化して風俗習慣等漢民と大差なきものを「漢回」又は「回漢」（東干人）と云ひ、奥地に進むに従つて漢化の程度が薄く、今日も尙頭部に布を巻けるものを「纏民」又は「纏回」と稱し、新疆方面に多い。漢回、纏回共に一般に回教戒律を眞面目に守つてゐるから、漢民に比して規則正しく、勤勉、質朴、清潔であり、團結心が強い。

### 三、回教徒の職業



本土と邊境とを問はず回教民中資力ある者は、牛羊皮革類、皮革製品並に膠等を取扱ひ、是等は殆んど全く教民の專業で、皮革業者の兼業としてのみ獸脂業が許されてゐると云ふ。又邊疆地方では阿片の栽培及び之が運輸販賣に従事する教民が多いが、其の飲用は戒律により嚴禁されてゐるから、阿片の害毒に悩まされてゐるのは殆んど漢民ばかりである。

次に主として支那本土地方であるが、中流以下の商賣としては、飲食業、湯屋（支那では回民が始めた）と云はれてゐる）、古着屋、又は諸種の小賣業等で、露天商及び行商人等の賤業に従事するものも少なくなく、馬車屋等も多い。

邊境方面では黄河本支流の唯一の交通機關たる牛羊皮袋の筏業は全く回教徒の手中にあり、尙陸地に於ける車馬運輸業も殆んど是等教民の獨占事業であり、同地方に於いては、交通運輸機關は自動車を除いては全く彼等が實權を握つてゐると云つても過言ではあるまい。

尙、回教徒に禁じられてゐる職業としては、藝娼妓業、理髮業、足爪剪職及び裁縫業等がある。

#### 四、回教徒の風習

回教の經典はコーラン（支那では可蘭經又は天經）と呼ばれ、吾々日本人がも經を大切に扱ふ以上に大事にし、地面や床等には決して置かない。例へば吾等が誓ひを立てたり、約束をしたりする場合に、「弓矢八幡も照覽あれ」といふやうなところを、彼等教民は「コーランにかけて」といひ、或はコーランの上に手を置いて誓はせたりする。

元來回教徒は非常に排他的で、異教徒を汚れたものと見做す癖があり、彼等が熱烈な信者であればある程、此の傾向が強いが、それは戒律を眞面目に遵守する爲めにさうした結果になるので、彼等の純眞性を現はしてゐることにもなる譯で、對異教徒感



情は奥地に入るほど強烈である。

此の「コーラン」の中にいろ／＼と犯してはならぬこと、爲さねばならぬこと等、回教徒の日常生活を律する教へが書かれてあるが、中でも次の諸點に就いては、回教徒は嚴重にコーラン等の戒律を守らねばならぬことになつてゐるから、彼等に接する場合には是非心得て置かねばならない。

八

### 一、飲食物關係

回教徒が出入する處即ち宿屋、料理店等には「教門」又は「清真館」等といふ招牌が門口に掲げられてあるから、斯う云ふ處では豚關係の料理は勿論、酒類等を求めても得られぬから、所謂支那料理店式には參らぬことを御承知ありたい。

(イ) 豚を最も汚れたものとして之を忌み嫌ひ、其の肉を絶対に口にしない許りでなく、又豚そのもの及び豚皮、豚毛等凡そ豚から製造されたものには全然手を觸れぬ。

他の戒律に違反する事があつても、豚肉だけは決して食はぬから、此の點特に留意されたい。

(ロ) 牛肉は食はぬこともないが、一般に羊肉を常食としてゐる。併しこれとても回教徒の手によつて屠殺されたものでなければ食つてはならぬことになつてゐるから、若し彼等に羊肉を施してやるやうな場合は、彼等の中から屠殺者を選んで調理をやらせる必要がある。北支方面で屠殺者が殆んど回教徒であるのは右のやうな事情によるのであらう。

(ハ) 其他食つてはならぬものを舉げると蝦、蟹、其他肉食獸の肉等である。

(ニ) 飲物としては酒類一般、煙草、阿片、「ハシーシュ」等の飲用を禁ぜられて居るから、此方から好意を以てすゝめた酒、煙草の類を彼等が拒否した場合、それは此方の好意を無視したからではなく、彼等の戒律に對する眞面目さを

九



表してゐるのであるから、不快に思ふどころか、寧ろ感心してやるべきである。

二、犬の息は汚れてゐて病毒傳染の源とせられ、犬の口或は濡れ犬に觸れることは禁ぜられてゐるから、犬には出来るだけ觸れぬ方がよい。之に反して猫は愛せられてゐる。

### 三、禮拜

彼等は日に五回神を禮拜せねばならぬことになつてゐる。即ち朝（曉闇から黎明の間）、晝（眞晝）、午後（自分の影が自分の二倍に達した時）、夕（夕焼の間）、夜（夕の禮拜後一時間半乃至二時間經過してから、即ち初更から朝の禮拜迄の間いつでも）の五回で、常にメツカの方角に向つて禮拜するから、彼等が屋外で禮拜してゐる時は其の前方に立つたり、横切つたりしてはならぬ。禮拜は寺院でゞも屋内でゞも特殊な場所以外は何處でゞもやる。大勢集つてや

る場合には最前列に一人が位置して會衆の禮拜を先導するのであるが、回教僧侶即ち教長（阿訇アホ又は阿衡アホ）副教長（以馬目イマム）等が之に當つてゐる。

### 四、宗教行事

回教徒は種々の行事を回教曆に據つて行つてゐるが、其の曆は吾等の曆と平年に拾日、閏年に拾壹日の差がある。

#### （イ）勒默藏祭ラマザン

回教曆の第九月を勒默藏（又は林馬山）といひ、此の一ヶ月（年により三十日又は二十九日）中、日の出より日没までは一切の飲食物を斷つて専ら戒律を嚴守して神を禮拜せねばならぬ。但し日没から翌日の日の出までの間は飲食を許される。此の月が終つた翌日から三日間祝祭を行ひ、貧者に金や物で施しをなし、親戚友人を招いて饗宴を張る。回曆による本年のラマザンは昭和十二年十一月三日に始まり十二月二日迄で、其の祝祭は翌三日から五日までゞあつた。



此の行事の起源については種々の説があるが、一般に飢餓の苦痛を嘗めて貧者に對する眞の慈悲を知らしめる目的に出たものだと言はれてゐる。

(ロ) 古兒巴爾祭

回教曆第十二月(ヅルヘツヂヤ)の十日にメッカを距る約四哩のミナに於てメッカ巡禮に上つた回教徒は羊、駱駝等身分相應の生贄を神に捧げて禮拜するのであるが、此の日回教徒の各家庭でも夫々羊等の贄を捧げて神を禮拜し、貧者に施與をなし、四日の間祝祭を續ける。此の大祭を古兒巴爾と稱し、回曆による本年の分は昭和十三年二月十日に始まり十三日迄であつた。此の行事にメッカに巡禮した者をハヂと稱し、回教徒間では絶大な信用と尊敬が拂はれる。其の他回教聖者の命日等の祭日もあるが、前記の二つが最も重要な祝祭で、同教徒間では慶祝の交換が熾んに行はれる。

##### 五、

回教は前述の如く如何なるもの、像でも之を嚴しく排斥してゐるので、清真寺

は佛教や喇嘛教や道教等の寺院で見られる様な種々様々な像が全くないから、よし清真寺と記標がなくても自づと其の間に區別がつけられる。

尙、彼等は最後の審判の日が來れば、總て死者は甦り、回教徒は極樂に送られ異教徒は永劫の業火に投げ入れられると信じてゐるから、其の墓場に手を加へたりするやうな場合、殊に死骸が損壞されたり焼かれたりする事を忌む故、特に留意する必要がある。

尙一般に回民は阿訇及び以馬目に敬服すること大なるものがあるから、彼等を通じて事を運べば、より無難であり、より効果的であらうと思ふ。

支那に於ける回教徒と言つても、之を一律に論ずることは出來ない。中でも滿洲、北支及び蒙疆、察綏方面のそれと、西北邊疆地方のそれとの間には、教民としての意識、氣風等に大なる相違がある。即ち前者は漢民と雜居すること久しく、其の風俗習



慣等は多分に漢化され、唯其の信ずる宗教の差異が彼等と周囲の漢民とを意識的に區別させるだけで、随つて民族的意識乃至氣魄といふやうなものは極めて低いやうである。故に侮教問題等に事寄せて民族的に反抗して血を流したやうな事は殆んど知られてゐないが、之に反して後者は宗教的以外に民族的にも却々鮮明な意識を持つて居て漢民から侮辱を受けた場合、宗教的には勿論のこと、其の他の事でも常に猛然起つて復讐し、反抗を續けて來た。此の事は今日と雖も少しも變りはない。

前者は概して社會的にも下層階級が多く、被支配的立場にあるが、後者は之とは反對で、上層階級が多く、支配的立場にあり、是等の地方では蒙古人、西藏人を隸屬視し、漢人と共に文明人を以て任じてゐるのである。

従つて前者に對しては、回教上の特異慣習即ち前記一の各項及び三ぐらゐの點を心得て居れば其の他の點に關しては一般支那人に對する場合と同様でよいが、後者に對しては前記諸項に關して出來るだけ知つて置く必要があらう。

## 五、回教徒の諸將領

支那西北地方に於ける教民の有力なる首領は等しく馬姓を稱してゐるので、世に五馬として名が高い。今彼等について極く簡単に記して見よう。

先づ第一に甘肅及び新疆方面に武威を張り、ツラン帝國建設の大野望に若き胸を躍らせた一時の驍勇馬仲英マチュンインに指を屈せずばなるまい。彼は青海の首領馬步芳マフッファの弟で、南甘肅の河州に生れた。十七才にして馬步芳軍の營長となる。閻錫山が甘肅を攻めた時馬仲英は彼を一年近く河州に包圍して苦しめた。寧夏省方面に土匪的跳梁を演じた時もある。一九三〇年南京に赴く。蔣介石は彼の爲すあるを認め、軍官學校に入學させたが、居ること三月、黄河畔の中衛に走り、兵を集めて自ら師長と稱へ、後、甘州の軍長となる。其の頃新疆の纏回が叛亂を起して、彼に加勢を求めたので、新疆各地に轉戦、ソ聯の支援に強力を誇る盛世才の軍を散々惱ましたが、終に利なく一九三四年



露領に逃亡し、モスコに送られたが、今次事變に際し抗日戦線に参加して居るとかの風説もあるが、眞偽不明である。彼は一面残酷なところがあると言はれて居るが、勇敢にして機略縦横、不屈な氣魄を有し、支那西北角の惑星たるを失はない。本年二十八才とか。

〔尙新疆の纏回族の間には、嘗ての哈密王の顧問たりしホジャ・ニヤズ・ハヂ及び現に纏回族の指導的地位にあるヨルバース・ハーンが夫々勢力を有し、重きをなして居る。他に南部新疆即ち東トルキスタン方面に於て、英國の支援の下に東トルキスタン王國の建設を計つたサビド・ドモラ及びアブタリム等がある。〕

次に故馬麒の子馬步芳は青海省西寧に居り、全省に覇を唱へ、現に新編第二軍長で第百師長を兼ねて居る。比較的に政治的才能に富み、其の回教學校には教民以外の子弟をも入學させ、同省より西藏方面に蟠居する藏、蒙の遊牧民族を巧みに操縦し、部下の回兵を屯田的に組織編成して實力の優秀を誇つてゐる。尙同省内に産する羊毛は

彼の主要なる財源であり、駱駝又は黄河の革筏の便に依つて包頭に送られ、天津に出荷されてゐる。蓋し我が羊毛の資源として蒙古地方と共に重視されねばならぬ地域であらう。

又、青海省主席の馬麟があるが、單に長老として宗教的並に社會的聲望があるに過ぎず、政治的實力は馬步芳の手にある。

他に馬鴻逵、馬鴻賓及び馬步青があり、夫々寧夏、平涼、涼州等の各地に蟠居して其等各地方に於ける政治的指導勢力をなして居る。

之に反して、北支方面に於ける教民の間では、僅かに今次北支新政府によつて濟南市長に任ぜられた馬良が政治的指導地位にあるに過ぎない。

尙、廣西の雄白崇禧が回教徒であることは人のよく知るところである。



昭和十三年三月廿五日印刷  
昭和十三年四月一日發行

(非賣品)

編輯兼  
發行人

是則高作

印刷人

野島新之丞

印刷所

野島好文堂

東京市小石川區音羽町八ノ十一  
電話牛込六九六六番

發行所

イスラム文化協會

東京市麹町區內幸町一ノ三太平ビル別館  
電話銀座五二一五 振替東京三六四〇番



終

